

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	体験型放課後等デイサービス リトルフット		
○保護者評価実施期間	令和8年1月20日		令和8年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45人	(回答者数) 32人
○従業者評価実施期間	令和8年1月20日		令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 7人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫している。	「生きる力」を軸にプログラムを構成しています。 毎月、職員全員でプログラムの構成を企画しています。 また、プログラム担当が日案という形で支援内容を作成し、職員全体が統一した支援を行えるよう心掛けています。	今後も子どもたちの興味関心やニーズを取り入れながら、新しい活動や体験型のプログラムを検討していきます。 また、活動の振り返りを行いながら職員間でアイデアを共有し、より充実した支援につなげていきます。
2	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になるよう心掛けています。	毎日、子どもたちの訓練もかねて掃除を行っています。 子どもたちの手が届きにくい所については、閉所後スタッフが清掃を行うよう心掛けています。	定期的に環境整備や、清掃状況の確認を行いながら、より快適で安心して過ごせる環境づくりを進めていきます。 また、子どもたち自身にも整理整頓や片付けの習慣を身に付けられるよう、日々の活動の中環境づくりへの参加を促していきます。
3	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っている。	見学・契約時には、運営規定や支援内容、利用者負担等について資料を用いて説明を行い、わかりやすい言葉でお伝えすることを意識しています。 また、支援プログラムについては、実際の活動内容や事例を紹介しながら説明し、イメージがもてるよう工夫をしています。	今後も見学や契約時の説明に加えて、日々の活動の様子に加え、日々の活動の様子や支援内容についても通信やSNS等を活用しながらわかりやすく情報発信を行っていきます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練や、感染症対策等のBCPに基づく取り組みは実施しているものの、その実施内容や取り組み状況について保護者への情報発信が十分でなく、事業所でどのような対応や訓練を行っているのかが伝わりにくい	避難訓練等は事業所内で実施しているものの、実施後の報告や周知の仕組みが十分に整備されておらず、保護者へ共有する機会が限られていたことが要因と考えられます。 また、日々の活動報告が中心となり、防災・感染症対策などの取り組みを継続的に発信する意識が十分ではありませんでした。	今後は、避難訓練やBCPに関する取り組みについて、SNSや毎月配布している通信を活用し、実施内容や訓練の様子を定期的に発信していきます。事業所の安全対策や取り組みが保護者に分かりやすく伝わるよう、情報共有の機会を増やしていきます。
2	保護者会等の開催を通じた保護者同士の交流や地域・外部機関との交流の機会が十分とはいえず、保護者同士が乗降交換を行える場が少ない状況があります。	これまで、事業所としては日々の支援や個別の保護者対応を中心に行っており、保護者同士が交流できる場や地域とのつながりを意識した取り組みを計画的に実施する機会が少なかったことが要因と考えられます。	保護者会やイベントの機会を検討し、保護者同士が情報交換や交流を行える場づくりを進めていきます。また、地域や関係機関とのつながりも意識しながら、交流の機会を少しずつ広げていく予定です。
3	日々の支援内容については連絡帳や送迎時のやり取りを通してお伝えしていますが、支援の意図や取り組み内容が十分に保護者へ伝わっていないと感じることがありました。	日々の活動の様子はお伝えしているものの、支援の目的やねらいなどの説明が十分ではなく、事業所としてどのような意図で支援を行っているのかがわかりにくい場合があったことが要因と考えられます。また、保護者とお会いできる機会が限られるので、全てのご家庭に同じように情報が伝わらないことがありました。	連絡帳や送迎時の報告に加え、SNSや毎月の通信なども活用しながら、日々の活動内容や支援の狙いをわかりやすく発信していきます。